



# 名古屋いのちの電話

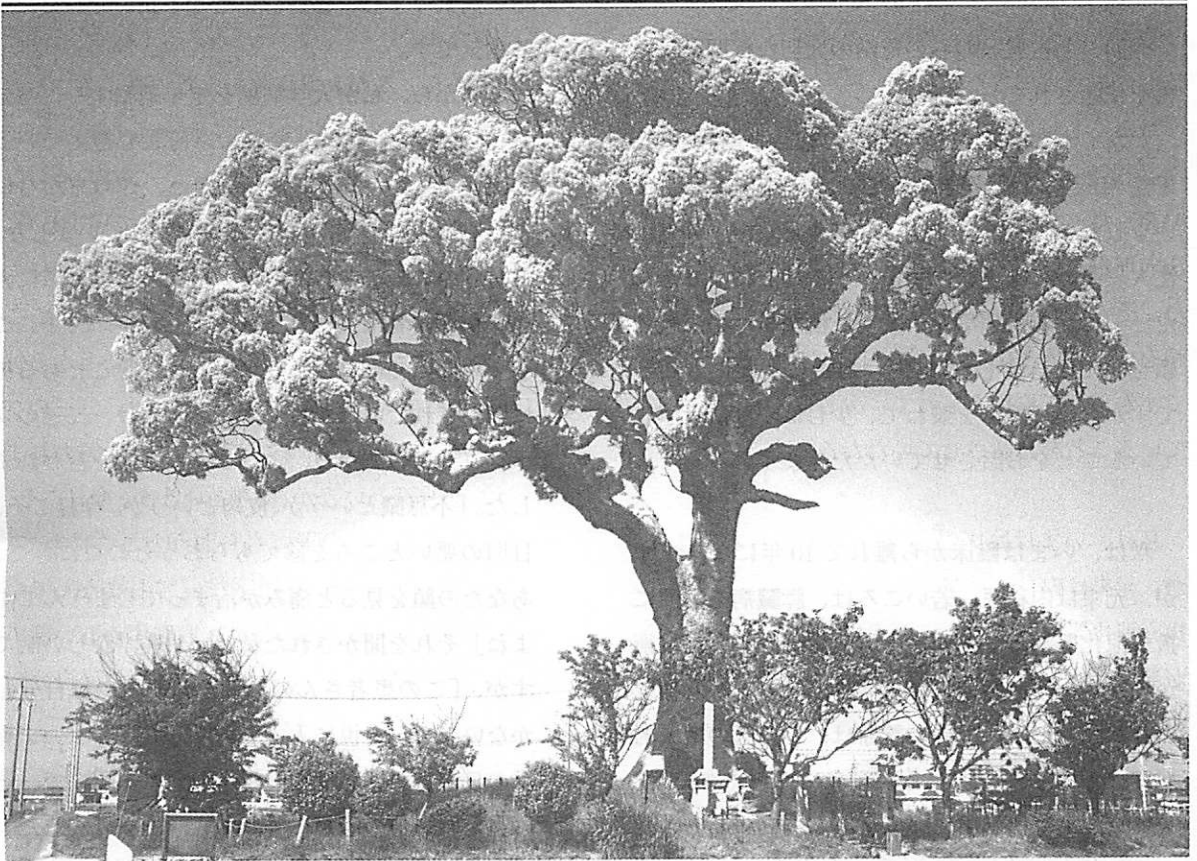


写真 中 島 初 男

梢

まど・みちお

かぞえきれないほどの  
はっぱに なって  
おしあいで 空をさわっている

さつきまで

じめんの下の くらやみにねて  
空へのゆめばかり みていた清水しみずが  
根から幹へ

幹から枝へ  
枝から梢へと のぼりつめて いま

むかし 雲だったところに

まっさおに そまって

走ったり ねころんだりした  
空を

虹にじだったところに

あふれる やさしさで

リボンをむすんだ  
空を

雨だったところに

胸 とどろかせて

スカイダイビングした  
空を

さわっても さわっても

さわりきれないもののように

「まど・みちお詩集」より



## ケアにおける「傲慢」と「謙遜」

愛知のちの電話協会理事 戸田安士

今回、名古屋のちの電話の大切な機関紙に原稿を依頼されました。

わたくしは、名古屋のちの電話の創設期に、電話相談員の訓練委員として、しばらくお手伝いをしたことがあります。昨年4月から、今度は法人理事として再びお手伝いすることになりました。そんな新米理事が、大切な機関紙への原稿依頼をいただきました。「題は自由に」ということです。から、ご挨拶を兼ねて、少しばかり最近感じていることをお話させていただきます。

私は、いまは臨床から離れて10年になりますが、元来は内科医。若いころは、脾臓病を専門に扱う消化器病医でした。脾臓病診療は、診断技術が発達した現在は、2、30年前とはすっかり様変わりしましたが、以前の診断は、専門医の職人的な勘に頼るようなところが多分にあったのです。大学病院の専門外来に「脾臓病」として紹介されてくる患者さんの半数以上が、「脾臓病」とは「似て非なる病気」でした。その大多数は「消化器心身症」で、そのなかに何人かの「慢性疼痛」の方が含まれていました。

心身医学用語事典（医学書院）によると、「慢性疼痛」は、「長時間痛みが持続し、再発を繰り返す、障害の程度と痛みの強さとの間に明らかな相関がなく、云々」と書かれています。つまり、痛みを訴えるものの、それに見合う身体レベルの病変や相応しい理由が見いだせない病気です。そうは言っても痛みだけに、ご本人にとって大変つ

らい病気ですし、容易に完治せず長い経過をたどる病気です。

ですから、私が大学病院を定年退職するころには、「慢性疼痛」の患者さんを何人も抱えていました。そして、「私が辞めたあと、この方たちはどうなるのだろうか」とひそかに案じていました。と言うのは、この方たちは、医師としての私に大きな信頼を寄せてくださっていたからで、「ここをやめないで…」というメッセージをことある毎に聞かされていたからです。とりわけ、二三のファン(?)の方から、よくこんなことを言われました。「不思議というか、皮肉というか。今日こそ、日頃の悪いところを診てもらおうとここに来て、あなたの顔を見ると痛みが治ってしまうんですよ」それを聞かされた私は、お恥ずかしい話ですが、「この患者さんの痛みを治せるのは自分しかないんだ」と悦に入っていました。いよいよ退職の日がきて、私は後ろ髪を引かれる思いで、その方たちを他の医師に委ねて大学を去りました。

それから1、2年たったころだったと思います。私の在職中は2週毎、午前3時半に家を出て一番で私の診察を受けにきておられた患者さんから一通の手紙をもらいました。驚いたことに、そこには、「いつの間にか痛みが和らいで、いまは元気に畑仕事をしています」としたためられていました。詳細は分かりませんが、その方は医療機関にもかかっていた様子でした。

私は、ある種のショックをもって、その手紙を何度も読み返しつつ考えました。「もし私が辞めないで、この患者さんの主治医であり続けていた

ら、果たして、この方の今日があったらどうか」ということです。紆余曲折はあったにせよ、この方は、私から離れて初めて、いまの生活を取り戻されたに相違ないと思われたのです。言いかえますと、この方は、私との医師・患者関係のなかで、「慢性疼痛」という役割を担わされていたのかも知れません。

「医原性疾患」という概念があります。もう一度、心身医学用語事典（前出）を引いてみますと、「医師の診察、態度、説明などに対する反応として、患者の自己暗示によって引き起こされた疾患」と定義されています。この場合の多くは、患者さんの不安や疑念を無視した医師の不用意な発言や態度といったネガティブな側面が問題になります。

しかし、医師の言動に起因する場合を「医師原性疾患」と、あえて命名された故石川中東大教授のお考えには、依存的な医師・患者関係も視野に入っていたのかも知れません。後年、親子関係でマスコミの話題にもなった「共依存」の関係の、医師・患者版とでもいうのでしょうか。いずれにしても、この方の「慢性疼痛」は、主治医である私との関係のなかで固定化された医原病だったと考えるのが、妥当なように思われるのです。

ところで、「医原性疾患」が「医師の言動に対する反応」として生ずる人間関係の歪みだとすれば、医師の代わりに、教師でも、両親でも、友人でも当てはめることができるはずで、そのなかには、悪意に満ちた支配的人間関係による被害だけでなく、善意の支配的あるいは共依存的関係によって、人知れず苦しんでおられる方もいらっしゃるに違いありません。

いこの電話の相談は、こうした人間関係のなかでの悲鳴にも似た声に耳を傾けるケアの営みとすることができます。名著「ケアの本質（ゆみる出版）」を著したミルトン・メイヤロフは、その冒頭に、「一人の人格をケアすることは、最も深

い意味で、その人が成長すること、自己実現することを助けることである」と言い、同時に、「他の人々をケアすることを通して、他の人々に役立つことによって、その人（ケアをする人）は自身の生の真の意味を生きているのである」と語ります。このように、真のケアの関係は、「ケアし、かつケアされる」相互性を、その本質において内在させているものでしょう。

そういう観点から言えば、前述の「慢性疼痛」の患者さんと私との関係は、相手の成長や自己実現を妨げていながら、一方的に、相手のために役立っていると確信していたという意味で、メイヤロフのいうケアとは「似て非なるもの」だったわけですね。

同じ著書でメイヤロフは、「ケアの主な要素」として8つを挙げ、そのひとつ、「謙遜」についてこう述べます。「問題はいつも、直面するその新しい状況に対して何が適切かということであり、…こうした状況は、原則を単に機械的に応用していけばよいというような過去の反復ではないのである」と言って、ケアは「つねに新しく始める」ものだとしています。さらに、「謙遜はまた、私の特別なケアが決して特権を与えられていないのだ、と自覚することだ」とも述べています。

わたしたちの電話相談においても、傾聴に値する言葉だと思うのです。

## 2004年度 事業報告

2004年度も愛知いのちの電話協会の電話相談活動に、多くの方々から暖かいご支援とご協力を賜りました。心より感謝申し上げます。またこの1年を通じ1日の休みもなくご奉仕いただきました相談員の方々に、改めて敬意と謝辞を申し上げます。

1985年の開局以来、292,424件の電話相談を受信いたしました。2001年からは厚生労働省の後援のもとに自殺防止のフリーダイヤルが始まり4年目になりました。その背景には、年間3万人の自殺者の防止対策ということがありますが、全国的な取り組みとしての、いのちの電話の果たす重要性が高まっていることへの表れかと思われまます。こうした事業を支えてくださった多くの支援者、電話相談員の皆様のご尽力があつてのことと重ねて感謝申し上げます。

「電話相談ボランティア養成講座」は、15期生を養成する運びとなりました。応募者62名で4月23日から開講いたしました。この15期生からは1年の研修終了後、6ヶ月の実地電話相談の研修という新しい取り組みを試みます。

### 養成委員会

委員長 長瀬 治之

14期生の養成講座への申し込みは98名ありました。本来なら98名全員を対象にした養成を企画したいのですが、体験を主体にした養成を考えると限られた人数しか養成できなくなってしまいます。そのため4月17日に中期の講座に進んでもらう人の面接をしました。電話相談員を養成する柱の一つは、普段なら何気なく言葉にしてしまう自分自身のあり方に少しでも気づいてもらうことです。どれだけたくさんの知識を身につけても電話相談の利用者の話に耳を傾ける時、知識はほとんど役に立ちません。講義で受けた知識ではなく、自分自身が持っている価値観、感覚で受け答えしてしまいます。養成講座の中期では、そのあたりの価値観、感覚に少しでも目が行くように人間関係トレーニングと称して、現役の電話相談員をスタッフにお願いして、45名の研修生を養成しました。

14期生の養成は2005年度に入ってしまう、2004年度である3月までにできた養成は、電話相談を実際にしてもらう前の準備までです。この年度の最後の研修はトライアル研修と称して、現役の相談員に利用者になってもらい、研修生が相談員としてロールプレイを行うものです。13期生の時は相談員の電話相談を実際にモニターしてもらいましたが、守秘義務の問題もあり、14期生に行った新しい試みです。体験を中心にした養成を試みてきましたが、まだまだ改善すべきところがあり、2005年度から始まる15期生の養成に生かされることと思います。

## 相談委員会

委員長 兼田 智彦

相談委員会は、電話相談員養成講座を終え認定された相談員の研修・ケアサポート・担当編成・環境改善・ベルの会との連絡調整などのお世話をする委員会です。メンバーの多くは、相談員の所属しているワーカーズグループから選出されています。相談委員会の活動にご協力いただいた研修スタッフ・スーパーバイザー・相談員の皆様はこの場をお借りして感謝いたします。

いのちの電話の相談員は毎年4月に相談員としての登録を更新し、その誓約書には継続研修への参加やスーパービジョンを受ける権利と義務が記されています。

- 1 継続研修は登録したすべての相談員が所属するグループ別の研修で、各グループとも年間10回以上行いました。さらに、各グループが1回以上公開講座を行い、多くの相談員が参加しました。
- 2 スーパービジョン・ピアスーパービジョンは相談員が年1回各自行いました。スーパーバイザーとのグループスーパービジョンと個別のスーパービジョンなど、電話相談の質を維持し向上させるための必須の研修です。
- 3 12月1日～7日に全国的に行われた厚生労働省補助事業『自殺予防いのちの電話フリーダイヤル』に参加し、そのための事前・事後研修を行いました。
- 4 電話相談室のカーペットの張り替えや大掃除など、電話相談センターの環境をより良くするために改善に努めました。

## 広報委員会

委員長 長井 潤

毎年3回編集して皆様のお手元にお届けしている機関紙「名古屋いのちの電話」は、昨年度3月で61号を発刊することができました。まさに名古屋いのちの電話の歴史そのものと言うことができます。

この機関紙には最初から、表紙には文珠幹夫さんの心豊かな写真を飾らせていただき、きっと皆様も機関紙の「顔」として、同時掲載の詩と一緒にそれぞれの想いを抱かれたことと思います。その文珠さんが大変残念なことに、色々なご都合で61号の表紙が最後の写真となってしまいました。これまでの文珠さんのご奉仕と、いのちの電話への深いご理解は、どんな感謝の言葉をもってしても足りません。

昨年度のチャリティーコンサートも、出演の安田美穂子さんのご奉仕と、皆様のご協力で会場は満席の盛況でした。このところ内容的に素晴らしいコンサートが続き、開催を毎回楽しみにされている方々が多くいらっしゃることは、大変な支えとなっています。

2月には恒例の市民公開講座が開催され、福井県の観光名所（同時に自殺者が多いことでも有名？）の東尋坊で、訪れる自殺願望者に「生きる」ことの対話を通し、自殺防止のためのNPO法人を立ち上げられて尊い働きをされている、茂幸雄氏のお話を聞くことができました（講演内容は機関紙61号に掲載）。

どうぞこれからも広報委員会の主催する各種催しにご注目いただき、より多くのご参加をいただきますようお願いいたします。

7月には京都から森乃福郎師匠をお招きし「チャリティー寄席」を開催します。絶対来なきヤソンです。

## 総務委員会

委員長 植田 望

2004年度の目標として「組織全体にかかわる内容を把握し、事務局と協力しながら組織を支えていくのが総務委員会の役割」と考えました。

運営協議会の開催について

協会の運営を行うためにまず運営協議会の開催に重点をおきました。

運営協議会は、養成・相談・広報・財務・総務の5委員会の委員長、ベルの会及び友の会会長、事務局長で構成されています。会議では、各委員会の現状、事務連絡、調整など様々な情報、意見がだされました。その中から今年度具体化された内容を2,3報告いたします。

### (1) 第15期養成講座について

14期養成講座までは、養成委員会に運営を一任していましたが、会議の中で検討した結果、第15期養成講座については担当責任者を長岡利貞常務理事に依頼し、講師、カリキュラムを含めて養成委員会の中に、14期、15期の2つの養成講座を平行して行うことになりました。

### (2) 相談員の定年制の実施について

この件も会議の中で各委員より意見が集中し、定年を迎える相談員には、事務局より文書でお知らせすることや、感謝の集いを行うことについても具体的な提案がなされました。

総務委員会では、今後も運営協議会での話し合いを大切にしながら事務局の裏方として組織運営が円滑に行われるようお手伝いする予定です。

## 財務委員会

委員長 西沢 信正

年3回の財務委員会と2回の懇談会を開き、お互いの意見を出し合ってきました。2004年度の特徴は、2002年度からの黒字財政を推進し、支出面での抑制に努め、ここ3年間安定した財務基盤を保ってきました。しかし一方では、年々減少している収入面を立て直すことなど、運営面での活性化を図ることがこれからの懸案となっています。

2005年4月から開始いたしました15期養成講座の新しい研修に伴った事業は、まず研修費に前年度同様予算を増額することで、相談員の研修に援助、助成を考えることが話し合われました。新しい相談員を育成するための養成研修のみならず、現役相談員へのスーパービジョン、継続研修、課外研修等にもあてていきます。また、事務局の事務スタッフの補充も考えています。

ここ数年来懸念されております東海大地震に備えての予備費は、常にそれを確保し、非常持ち出し袋、飲料水、医薬品の補充にも当てています。事務用キャビネットの地震対策での補強や、非常用梯子も設置してきました。常に心の準備とともに、相談員の安全にも心がけ、万全の準備をしております。

## 2004年度収支計算書

単位：円

## 2005年度予算

単位：円

| 科目                 | 2004年決算    |
|--------------------|------------|
| (貸方) 収入の部          |            |
| 助成金                | 850,000    |
| 賛助会費 (A)           | 1,080,000  |
| 賛助会費 (B)           | 600,000    |
| 賛助会費 (C)           | 435,000    |
| 会費 (個人)            | 0          |
| 会費 (法人)            | 3,070,000  |
| 相談員・友の会会費          | 173,000    |
| 寄付 (個人)            | 2,148,175  |
| 寄付金 (法人)           | 1,868,104  |
| 年末募金               | 820,000    |
| 講座受講料              | 2,247,000  |
| 受取利息               | 803,316    |
| 雑収入                | 41,950     |
| 当期収入合計 (A)         | 14,136,545 |
| 前期繰越               | 7,969,595  |
| 収入合計 (B)           | 22,106,140 |
| (借方) 支出の部          |            |
| 事業費                |            |
| 教育訓練費              | 3,076,586  |
| 広報費                | 526,550    |
| 調査研究費              | 0          |
| 会議費                | 0          |
| 特別事業費              | 0          |
| 連盟分担金              | 259,000    |
| 諸会費                | 30,000     |
| (事業費合計)            | 3,892,136  |
| 管理費                |            |
| 人件費                | 3,674,300  |
| 需用費                |            |
| 家賃                 | 2,520,000  |
| 共益費                | 163,800    |
| 車庫賃借料              | 0          |
| 光熱水道費              | 634,422    |
| 通信費                | 474,340    |
| 法定福利費              | 112,700    |
| 賃借料                | 266,070    |
| 旅費・交通費             | 4,000      |
| 文具印刷費              | 150,636    |
| 営繕費                | 37,093     |
| 消耗品費               | 108,947    |
| 雑費                 | 135,511    |
| 東海地震対策費            | 0          |
| 25周年記念事業引当         | 1,000,000  |
| (管理費合計)            | 9,281,819  |
| 当期支出合計 (C)         | 13,173,955 |
| 当期収支差額 (A) - (C)   | 962,590    |
| 次期繰越収支差額 (B) - (C) | 8,932,185  |

| 科目                 | 2005年予算    |
|--------------------|------------|
| (貸方) 収入の部          |            |
| 助成金                | 850,000    |
| 賛助会費 (A)           | 1,000,000  |
| 賛助会費 (B)           | 500,000    |
| 賛助会費 (C)           | 400,000    |
| 会費 (個人)            | 0          |
| 会費 (法人)            | 3,100,000  |
| 相談員・友の会会費          | 0          |
| 寄付 (個人)            | 2,000,000  |
| 寄付金 (法人)           | 1,500,000  |
| 年末募金               | 1,000,000  |
| 講座受講料              | 2,500,000  |
| 受取利息               | 700,000    |
| 雑収入                | 50,000     |
| 当期収入合計 (A)         | 13,600,000 |
| 前期繰越               | 8,932,185  |
| 収入合計 (B)           | 22,532,185 |
| (借方) 支出の部          |            |
| 事業費                |            |
| 教育訓練費              | 3,500,000  |
| 広報費                | 600,000    |
| 調査研究費              | 30,000     |
| 会議費                | 20,000     |
| 特別事業費              | 50,000     |
| 連盟分担金              | 300,000    |
| 諸会費                | 20,000     |
| (事業費合計)            | 4,520,000  |
| 管理費                |            |
| 人件費                | 4,000,000  |
| 需用費                |            |
| 家賃                 | 2,520,000  |
| 共益費                | 163,800    |
| 車庫賃借料              | 0          |
| 光熱水道費              | 650,000    |
| 通信費                | 500,000    |
| 法定福利費              | 100,000    |
| 賃借料                | 279,720    |
| 旅費・交通費             | 50,000     |
| 文具印刷費              | 300,000    |
| 営繕費                | 150,000    |
| 消耗品費               | 300,000    |
| 雑費                 | 400,000    |
| 東海地震対策費            | 1,000,000  |
| 25周年記念事業引当         | 1,000,000  |
| (管理費合計)            | 11,413,520 |
| 当期支出合計 (C)         | 15,933,520 |
| 当期収支差額 (A) - (C)   | 2,333,520  |
| 次期繰越収支差額 (B) - (C) | 6,598,665  |

# グラフで見る名古屋いのちの電話

## ○ 20年間の受信件数の推移 (1985年7月～2004年12月)

1985年の開局からの受信件数は、292,424件でした(うち無言電話の55,449件を含む)。2004年度の1日あたりの平均受信件数は55件になります。

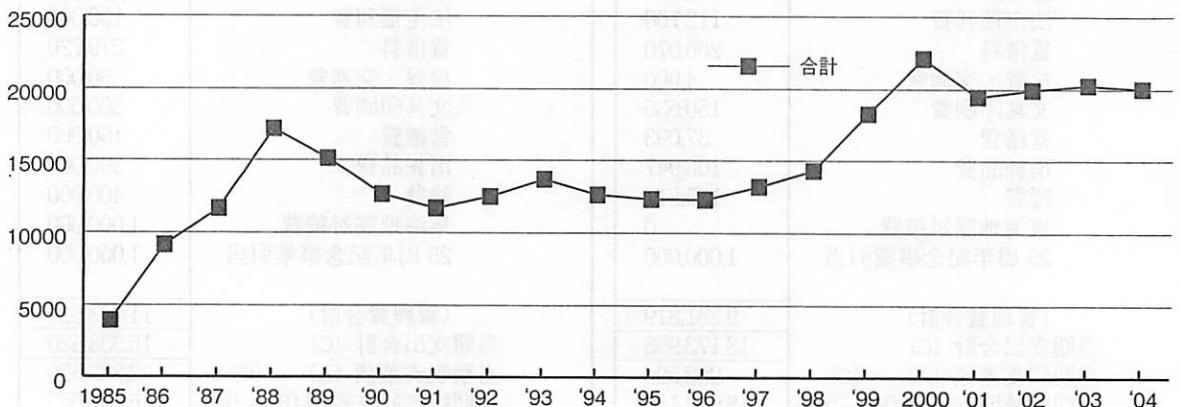
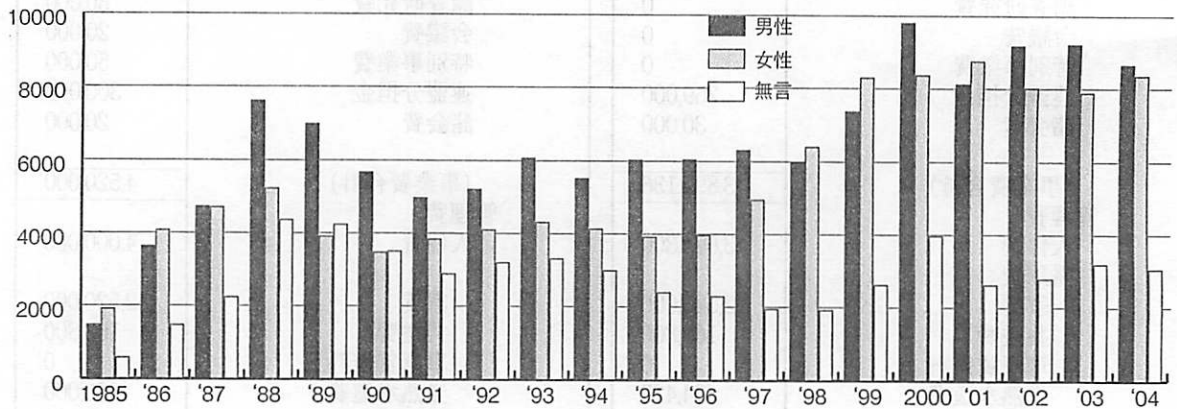
2001年度から始まりました厚生労働省の後援による、自殺予防のフリーダイヤルは4年目を迎え、12月1日から7日までの1週間で311件(無言電話の35件を含む)を受信しました。2005年度もフリーダイヤルは続行されることになりました。

## ○ 20年間の受信件数 (1985年～2004年)

|    | 1985  | 1986  | 1987   | 1988   | 1989   | 1990   | 1991   | 1992   | 1993   | 1994   | 1995   |
|----|-------|-------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|
| 男性 | 1,465 | 3,626 | 4,721  | 7,603  | 6,979  | 5,670  | 4,970  | 5,210  | 6,069  | 5,514  | 6,025  |
| 女性 | 1,905 | 4,071 | 4,700  | 5,224  | 3,905  | 3,469  | 3,836  | 4,094  | 4,306  | 4,125  | 3,911  |
| 無言 | 573   | 1,466 | 2,227  | 4,356  | 4,232  | 3,504  | 2,882  | 3,189  | 3,306  | 2,981  | 2,385  |
| 合計 | 3,943 | 9,163 | 11,648 | 17,183 | 15,116 | 12,643 | 11,688 | 12,493 | 13,681 | 12,620 | 12,321 |

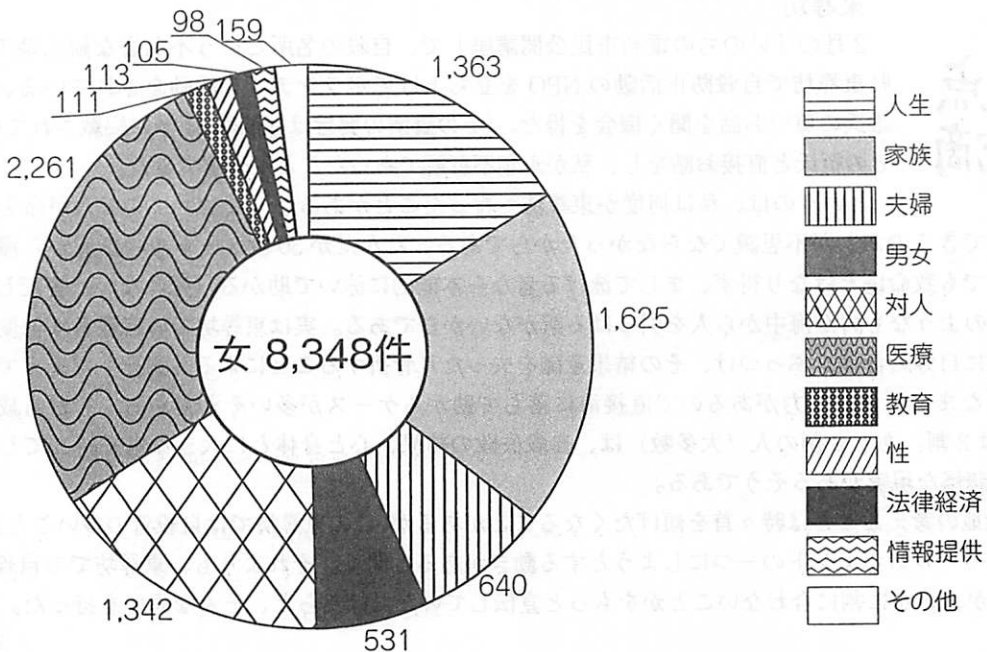
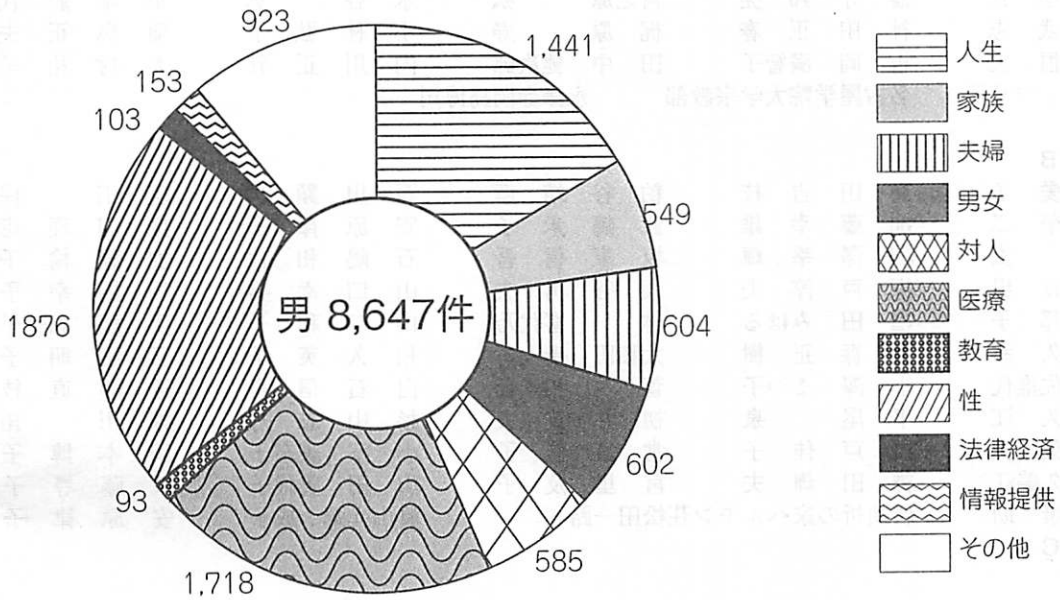
  

|    | 1996   | 1997   | 1998   | 1999   | 2000   | 2001   | 2002   | 2003   | 2004   | 合計      |
|----|--------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|---------|
| 男性 | 6,038  | 6,301  | 5,989  | 7,364  | 9,800  | 8,114  | 9,173  | 9,215  | 8,647  | 128,493 |
| 女性 | 3,966  | 4,940  | 6,392  | 8,289  | 8,357  | 8,749  | 8,010  | 7,885  | 8,348  | 108,482 |
| 無言 | 2,285  | 1,942  | 1,913  | 2,610  | 3,962  | 2,617  | 2,783  | 3,184  | 3,051  | 55,449  |
| 合計 | 12,289 | 13,183 | 14,294 | 18,263 | 22,119 | 19,480 | 19,966 | 20,284 | 20,046 | 292,424 |



2004年 相談内容別受信件数（1月～12月）〔除く無言電話〕

|    |   | 人生    | 家族    | 夫婦    | 男女    | 対人    | 医療    | 教育  | 性     | 法律経済 | 情報提供 | その他   | 総計     |
|----|---|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-----|-------|------|------|-------|--------|
| 総計 | 男 | 1,441 | 549   | 604   | 602   | 585   | 1,718 | 93  | 1,876 | 103  | 153  | 923   | 8,647  |
|    | 女 | 1,363 | 1,625 | 640   | 531   | 1,342 | 2,261 | 111 | 113   | 105  | 98   | 159   | 8,348  |
|    | 計 | 2,804 | 2,174 | 1,244 | 1,133 | 1,927 | 3,979 | 204 | 1,989 | 208  | 251  | 1,082 | 16,995 |



## ご援助ありがとうございます

2005年2月より5月末日までに下記の方々から暖かいご支援をいただきました。一同深く感謝いたしますと共に報告を申し上げます。(順不同・敬称略)

なお、上記期間内に何度もご寄付くださった方もお名前は1回にさせていただいております。

社会福祉法人愛知いのちの電話協会  
理事長 野村 純一  
財務委員会

### 賛助会員 A

|          |            |         |       |        |
|----------|------------|---------|-------|--------|
| 小山 勇     | 岩田 明       | 西沢 信正   | 岡田 庸男 | 伊藤 美江子 |
| 小嶋 洋一    | 落合 亨子      | 富安 玲子   | 豊田 彬子 | 水野 信義  |
| 田畑 洋子    | 大塚 博子      | 小笠原 覚   | 石原 之浩 | 川上 厚成  |
| 小野 孝児    | 藩 守邦 晃     | 宮之原 弘   | 水谷 真子 | 梨本 将代  |
| 八木 武志    | 神田 正春      | 梶原 寿    | 小林 弘子 | 菊島 正祐  |
| 牧岡 恒夫    | 吉岡 満智子     | 田中 健次郎  | 内川 正邦 | 大村 祐子  |
| 小川義雄・マリ子 | 名古屋学院大学宗教部 | 永澤寺岡島博司 |       |        |

### 賛助会員 B

|        |                |       |         |        |
|--------|----------------|-------|---------|--------|
| 吉田 愛子  | 島田 吉枝          | 粕谷 靖彦 | 石川 顕次   | 塩田 保恵子 |
| 中田 榮二  | 加藤 幸雄          | 粕武 嶋米 | 安原 律和   | 塩田 理倫  |
| 青山 玄   | 柳澤 幸輝          | 坂東 信吾 | 山口 幸男   | 加藤 馬幸美 |
| 橋本 良男  | 坂戸 淳夫          | 入谷 勇夫 | 山口 和子   | 相伊 石恵美 |
| 岩田 邦子  | 福田 みはる         | 林 喜代乃 | 和久 英子   | 伊藤 朗直  |
| 相川 久幸  | 大森 正樹          | 和田 康和 | 白石 信志   | 近藤 川本  |
| 寺西 佐稚代 | 小平 尾泉          | 菅 井英夫 | 杉山 室美   | 細岡 本藤  |
| 梶原 久江  | 榎戸 佳子          | 初富 佳子 | 小山 田美代子 | 武安 藤原  |
| 宮内 英夫  | 榎田 輝夫          | 宮里 及子 | 山田 美代子  |        |
| 榎本 久美江 | 神田 輝夫          |       | 眞山光彌・成子 |        |
| 笠井 康助  | 新胡祈の家ヘルモン荘松田一路 |       |         |        |

### 賛助会員 C

#### 東尋坊

## 点 滴

2月の「いのちの電話市民公開講座」で、自殺の名所という不名誉な観光地の福井県東尋坊で自殺防止活動のNPOを立ち上げてボランティア活動をされている、茂幸雄氏の尊いお話を聞く機会を得た。(その講演の要旨は機関紙61号に掲載されている) その折氏と直接お話をし、私が永年不可解であったことが理解できた。

というのは、私は何度か東尋坊へ行ったことがあるが「なぜ、ここで人が命を絶つことができるのか」が不思議でならなかったからである。たかだか30数メートルの断崖から海に飛び込んでも致命傷とはなり得ず、まして泳げる者なら本能的に泳いで助かる(死ねない)筈だし、まさか霊のようなものが海中から人を引っばる訳がないからである。実は東尋坊での自殺者は何度か途中の崖に自分の身体をぶっつけ、その結果意識を失ったり骨折することによる「溺死」だそうで、若い人はなまじジャンプ力があるので直接海に落ちて助かるケースが多いそうである。しかも成功率(?)は2割。あと8割の人(大多数)は、自殺失敗の結果、心と身体とに大きな傷を持ってしまうという悲惨な現実があるそうである。

観光地の考えることは時々首を傾げたくることがあるが、この東尋坊では自殺者の多いことさえ、観光のセールスポイントの一つにしようとする動きがあると聞く。それよりも、東尋坊での自殺という行為が、いかに割に合わないことかをもっと宣伝していただけたらと、そんな思いを持った。

(J.N.)

|        |       |        |       |       |
|--------|-------|--------|-------|-------|
| 村山一枝   | 春日部道  | 福田忠徳   | 竹内ひろ子 | 伊藤正征  |
| 加藤登茂子  | 田中さち子 | 鶴田和子   | 井沢陽子  | 太田重一  |
| 前田誠一   | 神尾初子  | 神谷将弘   | 水谷節子  | 尾関静枝  |
| 斉藤喜世子  | 山下夕カ子 | 中出智恵子  | 石川穂輔  | 矢野木口  |
| 小松フサ子  | 水野薺子  | 佐々木あつ子 | 相川義治  | 植平野昌  |
| 川原恵子   | 佐藤辰一  | 須藤ヨシ子  | 高山史子  | 水谷敦子  |
| 成瀬佳子   | 林郁子   | 森映子    | 山崎京美  | 多和田善喜 |
| 細川美代子  | 中谷塩子  | 寺田弘正   | 岡栗厚   | 浅野喜代子 |
| 多和田いみ子 | 北岡啓   | 福岡     | 栗小    |       |

日本福音ルーテル復活教会婦人会

寄付金

|       |       |       |       |      |
|-------|-------|-------|-------|------|
| 山川倫子  | 舟橋いさゑ | 四日木薫  | 原口友和  | 服部富美 |
| 野口博之  | 竹内哲子  | 鈴木村純一 | 神田喜代子 | 松田厚子 |
| 鈴木智子  | 太田智恵子 | 野村植幹  | 豊田理初  | 加藤新中 |
| 原田祐子  | 林純子   | 柘藤あさ子 | 小島初郁  | 高橋美幸 |
| 風岡よし子 | 近藤多美  | 大塚博利  | 石田川妙子 | 小栗和智 |
| 市崎和子  | 江崎正邦  | 長小川邦陽 | 中川喜代子 | 伊藤片岡 |
| 永井洋子  | 内川山漠人 | 榊田原   | 宮安見   |      |
| 西沢信正  | 柴山原   | 梶原    | 安見    |      |
| 須賀美奈子 | 石原    |       | 見     |      |

日本キリスト教団鳴海教会 金城学院高等学校 名古屋学院大学宗教部 日本基督教団南山教会  
 愛知教会女性の会 日本キリスト教団名古屋教会 名古屋神召キリスト教会 カトリック日比野教会  
 聖ドミニコ宣教修道女会岡崎修道院 名古屋北教会社会奉仕委員会 カトリック東山教会  
 金城教会福祉社会委員会 川名山聖霊修道院 南山幼稚園 光ヶ丘女子高等学校  
 財団法人後藤報恩会 (株)オティックス 万能工業(株) 黒金化成(株) (株)CTK  
 理研産業株式会社 幼き聖マリア修道院 在日大韓基督教会女性会 (株)中外  
 (株)陣内工業所 ホーユー(株) 崇覚寺 東名サニタリー(株)

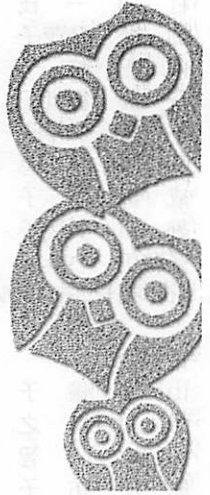
賛助寄付

|             |                |              |           |         |
|-------------|----------------|--------------|-----------|---------|
| (株)三琇プレジジョン | (株)杉浦製作所       | (株)みどり造園     | 杉山工業(株)   | アサダ(株)  |
| (株)植屋       | 名東歯車(株)        | 水野精麦倉庫(株)    | 名古屋中村法人会  |         |
| トヨタL&F中部(株) | 武田機工(株)        | 東海テレビ福祉文化事業団 |           | 豊田合成(株) |
| 立松モールド工業(株) | (株)ミヤタコーポレイション |              | トヨタ自動車(株) |         |

名古屋いのちの電話友の会便り

「友の会」は名古屋いのちの電話の活動を機会ある毎に応援することを目的に、この5年間仲間づくりに励んできました。去る4月29日に2005年度の総会を開催し、和やかな懇親のうちに活動の状況を確認し合い、今年度も会員の増強をはかり奉仕活動の拡大に努めることを申し合わせました。

現在の会員数は50～70名ですが、内に秘めたいのちの電話への思い入れと奉仕の熱情は計り知れません。毎月第3水曜日例集会の他必要に応じて奉仕活動を進めています。今年度の役員は 会長 木本精之助 副会長 金森タイ 中川幸子(新任) 書記 太田智恵子 会計 梶原久江 監事 常富佳子 が承認されました。積極参加を心より歓迎致します。(木本精之助)



名古屋いのちの電話

# チャリティー寄席

出演 森乃福郎 笑福亭高若

7月16日(土) 開演 15:00 (開場 14:30)

名古屋中央教会 (地下鉄「栄」5番出口すぐ)

全自由席 2000円

■主催 名古屋いのちの電話 ■後援 中日新聞社 NHK 厚生文化事業団

## 賛助会員を募集しています

ご協力をお願いします

いつも資金ボランティアとして会費やご寄付をいただき有難うございます。心から御礼申し上げます。会員の皆様の倍旧のご支援と共に、会員増加の運動にもお力添えを賜りますようお願いいたします。社会福祉法人として寄付金の税法上優遇措置が受けられます。誠に失礼ですが振込票を同封させていただきます。ご利用くだされば幸いです。

- (1) 法人会費 年間5万円・10万円・20万円
- (2) 賛助会員 (年間1口) A 10,000円 B 5,000円 C 3,000円
- (3) 一般寄付はご自由な金額で結構です
- (4) 夏期・年末寄付

口座名 社会福祉法人愛知いのちの電話協会  
 口座番号 UFJ 銀行大津町支店 (普) 477029  
 郵便振替口座 00810-8-53758

お問い合わせ…社会福祉法人愛知いのちの電話協会 名古屋いのちの電話事務局 ☎ 971-5181

## 編集後記

今月号から表紙の写真が替わりました。1985年発行の本紙第2号から今年3月の第61号まで連続60回、実に20年の長きにわたってあたたかく親しみやすい写真を提供し続けてくださった文珠幹夫さんが、海外での多忙なボランティア活動のため退かれることになりました。長年のご奉仕に心から厚くお礼申し上げます。

今月号からは地元の写真家中島初男さんにご登場いただきます。中島さんは1980年代後半から富士山や鈴鹿の「なごの大きくす」など、風景写真や人物写真を中心に写歴を積み重ね、自らグループ展を主宰するなど行動的な制作活動で知られるベテラン写真家です。表紙の写真は樹齢千年を越すとされる「なごの大きくす」です。孤高のなかに凜として立つゆるぎない存在感がみごとに表現されています。これからもどうぞご期待下さい。(A)

社会福祉法人愛知いのちの電話協会  
 名古屋いのちの電話

2005年夏

|           |                   |                        |             |
|-----------|-------------------|------------------------|-------------|
| 〒461-8691 | 名古屋東郵便局           | 私書箱第257号               | 2005年7月1日発行 |
| 事務局 ☎     | 052-971-5181      | 郵便振替口座 00810-8-53758   | 発行人 野村 純一   |
| 相談電話 ☎    | 052-971-4343      | UFJ 銀行大津町支店 (普) 477029 | 編集人 広報委員会   |
| 携帯相談電話    | NTT ドコモ東海「# 9556」 |                        |             |